三遍春東山作

歌川二代目豊國画　新鐫禅苑

教訓乳母草子　初編

東都書肆　吉鶴堂

教訓乳母草紙

山東庵
京山作
香蝶樓
豐國画
初編上之巻

A9
4450
1

再版

山東菴京山作
一陽齋豐國画

教訓乳母草紙

東陽書賈

芝三島街角
喜鶴堂發行

群書類從四百七十七巻目ふ阿仏尼ゞ作ゝる乳母草紙
ゝ物あり母阿仏尼ハ安嘉門院ふ仕へる四条とゝ〻宮女ふ
よゝ徹宵記物語ふ見そゝ阿仏尼ゞ乳母の草紙ハ雲井
の宮女ふ示ゝたる教の肩京山ゞ乳母の草紙ハ衢戸の童ふ諭
さ繪さゝしあり母賤き乳母ゞゝ事ゝ多きと心ゝて聴さ
ゝぐ教訓の一端とゝあさらなるべんゝ

山東庵京山

孝感得魚和漢之驛事

唐土の姜詩といふ人家貧しくして父没し母の事を至孝にその地水あくて母これをきらふ姜詩常に江水をくみて母に供せり其妻水をくみあく事母のきらふたぐるとなりて姑に事ること不孝なりとて姜詩大に怒り妻をいましめけるつまこれをうらみとせざらんもしてもうらもあふ不孝なりとうらまれてる思名をそそんとあるのせめかけるうとの魚のるるまたとこのむるまとども山里なるまぶたるまくらうえをけるまどをくるまるまとのるるまるまをつくるるのつまりたのこそまるるあるるるたびくるるるまるるるこれをきてつまとるくへけるまその日くのかくまるるふ泉中をくるるるまるまとその水母ふのまる江水ふ

まるまるり又これをるむたびふ魚あるて桶ふいるこれ孝心天ふ通じて天より魚をくるるるうるうるるる

孝女おらま

ちのまく

○きゝうー
の姜詩ゞつまの母ゝ孝ゝ
天ゝつゝじゝて泉ゝ俄ゝ湧ゝ
母のこゝのむゝるゝをゝえ竹内村の
ゝゝゝ

本文のかつこう

むかしかのくらのそうとくるる町人の
ひすめ[illegible]十二そ琴ゝあるのあるを
きそ[illegible]さくせんこきうをとりそや
たてかんこえをめてあつぎをあらの
うあめ さまゝ百ゝをえみらそけるふ
げいいなりそうとうこうさうま
まろれべみきをみまゝさる
のぎよらふかるひ
二どえゆも
ちそえず
百もくあく
とのゆゆそて
十二ゆそやん
てとるさ
あるりのあん
ゆちくめ
つるるくゆ
二ちりやの
ようそひつ
おいきせあ
そてんひけら
ちるりもよく
あひてきるえの

㊃ こさり
ぐさ
ゆ
ゆ
ゆ

第二編　月日のたつハ矢のごとくはあそあきよ廿五ゆそ

又ひとりがらのやう
こうへいきぐ四十五ゐり
きやとやうがよの
ゆえ三十ぐらゐよ
ぐゐる女
かくぶ
ぎりい
ぎうう
とにくゑ
ぐまりけんが
ひあきよが
かくをつゐゆ
ゆおりそのゐり
そのゐけいかをよ
ぎりぐ

二代目おをつま

あまぐ

○さそあハ日あきよが
十二のとーより廿五まで
つとやうるあやぎぶやくの
おやーきよりは中とあが
かるまぐるむなしの ちりとそ
ゑ十あまりのろうあんかごゆそ
きくりうきふぐをとせんらぐー
あきよがのやとらひけれがあきよ
こゑをきくそかけのめりけそゆ

ざーきくへとり　ろぶうの
あいさろ　ゆまりけれが
なのまんひぐをまめ
とん日あぐろゆまくるい
ぐぐぎゑあーぐあぐまくも
まろそのぐをりけきびー
るぐーとひめさをゑた
ぞのさゆへのあとーいまと
あーともまぐたつやのあををまくも
まくーるくはゆまえありそゆまくろの
あいーをまゆとやくーとうーとむぐた
のめりあてもものくせろーや
るどもたりうーくせーよ
さく日ぐゑろさまえ
ありせふきよる
ぐくみりきよりさ
あてとるーしたいき
るぐーらさいきん
のぐーひめぐうれを
ーとめくまるやう
にーいふうふう
たのむとゆきを
そちもそもぐ
きーよをまるめ　㊀

冊なきよ

もくろひものまん

㊁さいきんを
たくらみぐーとーいれ
さをてのちふくーふ
ろのようもいろをも
よめのそをふつきそよ
ーかれのさーひきよ
まるのるりきくーふ
そのくのもーろくそ
をるゆえきよを
つけてやれいあん
ぐんするこれらの
みのもーきうせ
せいとものさんをー
らくをやうそちー
ーくもたのめーとふ
ぐんをせゆえーろ
めくをすのさんのーー
ーとーきてあきよが
さーーろーひき
るーーぐをひぐえ
あーてけ

○さてあきよう〜〜ゑぐひ〜かまぜうそ〜〜
〜〜〜〜をさかゞそ〜〜あり〜めてそ〜〜
ありぐ〜〜そ〜〜あのうまをふくこ〜〜
〜〜〜〜おうけ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜〜〜

よりめ
よりめ

俗名 涼仙 京山作

俗名 孫三郎 國芳画

教訓乳母草紙初編上終

紅葉史部

一代紀聞 根源實紫 十二編より十五編迄 仙果作 迄より責出 國貞画

十二編 後手兒松ヶ崎の邸宅女中小島等が嘆歎せらるゝ慣ひ境も入水せんと
して實人壽祖を留しが此時式部野洲子鳥兒と共に北野詣の折柄大藏種村が
逼るに到り末葉童呂敏免に遇ひ近江へ歸る途中赤自も知る親金像にて難
都花麗なる物語へ十三編末葉童式部の危難を救ふ種村本心を失ひ大式部と合歓の
可笑味此事 式部夫婦疑ひ野洲子壽祖に祈るに奇病に苦しみ終に
死に至る等の悲哀の條多し 十三編 鳥兒式部を妬の讐とし書を加へんとして
大貳三位の誤に後手兒嫉妬の惡念宣孝に殺さるゝ宣孝の重ねて落命し
又北越に乳母性規の事を細に記し少將の君の貞操を記す十四編以下
の崖畧は別に記す べし

芝神明前 喜鶴堂主人敬白

教訓乳母草紙

山東庵
京山作
香蝶楼
豊国画
初編下之巻

京山作
豊國画

教訓乳母草紙

再鐫

地本錦繪問屋　江戸芝神明前　佐野屋喜兵衛板

教訓乳母草紙初編合巻下冊

第四段

十二のとしのころ母ぎみ貞女ちよ
るべーとひめの母ぎみ貞女ちよ
ゆへすーとまもるかからげいとる
あそまだあそこるーひあるかゆえ
たくさんさまべこそけこびも
さいきんをれこのこまりて
あまくこの女中の上ふあき
しまくりさまでけいゆも
ゆとくずけんおもうるくさを
もんーのやそくうゆそ
ちくるさきくひあるさきりを
たべしてとうえさと
忠義をさきことーそなのれを
のちふよるもえくとかいきそ
るちくうてをちゆるく
えをひらきをせをくをうる米
ありのすりありてあえをとこうく
あるものへかとこすをこうのるうて
でとくるをとびあくもあちちまで
あつぶれさまのゆとりくをしひうけこ
めーこんをもちくふあきけり
さまびるるでーとひめのようあるり
あくまりひるるをのさまふ

みつきたくうがわいさく
るり女中くるりもきよ川を
あくくるりのあるく
ちくいぶくるくるくるり
かりけまべ
けるふの
るくるも
おのの
づくく
けむくく
うりけりくまく
ひめぐまくをかさる
きよ川がちまの
てくろ一ッよりく
ちぞーるくるり

さるるどふけくるり
ふのけるくるりるり
けまべ天地をせべの和合ふ
くるるあるかどるくるひの
ちんらくとひありけまべ上下のようとびい
ちるもさくくるりくんくるのるのちかせとくて

つぶねきよりの

本のん　第七図

下女おろく

うぐひす
きよの川

▼ひけんやく
まるとをちつい
人とらへ
ひづと
るり又
あるぶ
えゑも
むさぶり
をすむを
けんやくと
てうえるも
あやまりるり
ちのけんやくとアん
ちゃくくとのさろひと
よくわきまえよつぎま
やうゆーておこでぎる
けんやくくいくえん
をやうのもとこと
むさぶりをすむ

下女ちろ

アんちゃくく
人ふうくくを
むさぶのらと
ぐちるりとものふうそて
あるようあびえてあやま

つぎよきよ川

式九ページ　ありがとうございます

その二

かくてきよ川るぞーとのまくふ
るぞーくまるる十七
年のあひだ
義をそろふ
つまもまぶよく
まそくあのれがから
てをるさまと上を
うやまひ下をらまそう
めのぶょけんやくして対をおぶ
ざりもあ人ふるそのとろふふしけり
○さそまこるぞーとのまくふ
はよめ入りのあるそ！男ぎくを
まうけあひ一よりつぐらそ男女の
はふうりともうこあひこ人の
きくたちまとやうふせんおんまあ
たぐめの男ぎくえるぞのこてみの
めとのとそこて十六まそ
めでくて生げんぶくありけりその
日のめでくまくふもさくるうきより
へまもるぐくまのありてありぐまぐあとと
をもたまたうけまぐらぶぐあをきてしる

第八図

そのよきよ川へやはりてつらく
なるのはやうまこなるやたちの
ばなんをうけてけいと
なるやえしるゆえ十二のさいよりよきこゝろ
公をつとめるでー　こまくさるけたちよゆそ
あくせくらまーゆえそのあそばみありて
めのうむるあのくちろぎろこまでも
かやそくハ町人のさくふうまれさまど
あり　うくきれみやづくをあくるゆえまろり
こまとみくちてとだんろさやとの
ばちんろりそのばちんをかくさんとそ
せぐまーやよめの孝ちんかそもき
四十九のさ　さいきんちこも
たんろさまのばちんをうさん
こやろうわぐそーもことくハ六十
二ろり十七年のばやろう公ふきまを
のつぎろうちとろうろの名をけて
ゆまりそくハ天のくちろり　ちろのく
ちくふくとこよりまとうるとき
かくとあろさんとあるひか

つ多郎きよ川

第九図

たんろさまくれちんをうんさん
しあはすぐこもうくぎくやや
づくの父ろまこがちや
とろとのたろくまあろか
てろまもからこ
そもはきたろるん
ろふろうつけても
ばけんぐくとそは
ちそらんきこの
あいくまをわらふべと
とくろはときあそろ
ぐか久りけり

第九図

そまこくさそちきよりが
うくくろるせぐまあちゆりの
名をつぎそはるめんと名の
ばそらくとつぎくふきよ川が
そくそくるろるまぐよく
めの美ばをりきそて
月のちたぐーく母孝考
ちんろくつまのかすくも
をうとろつまそ、ぐそよ兄女ろろけり

兄そのこそ女の女

○さてある日きこりのこころ
つくしさてうたるそのふくふ
とのかどをくぐりあるぐとく
あらとまのねがひをぐて
たるところらくもうもも
かやしてうくわかってふ
きてらまーあれうとやよ
らのおやせるうとのふく
ろうくそりくこれうと
ふんどをうくふくを
たをうとるアをて
ヤけうへうさ
ーまうそまと
てへうの入り
あうるそのわるる
さうのたるお母さる
さいきんうきれれば
お母さまのおそをぐふ
あさこいわづくーやさ月
ぐうりうりまうとあふ
つくさるくいうめのこちよ
あうぐまどもあさまきを
うまさるたやうゐ公せんうとう
まえうふこのうびあらとまのねがひ

せがまと抽をお弁

(二) その二

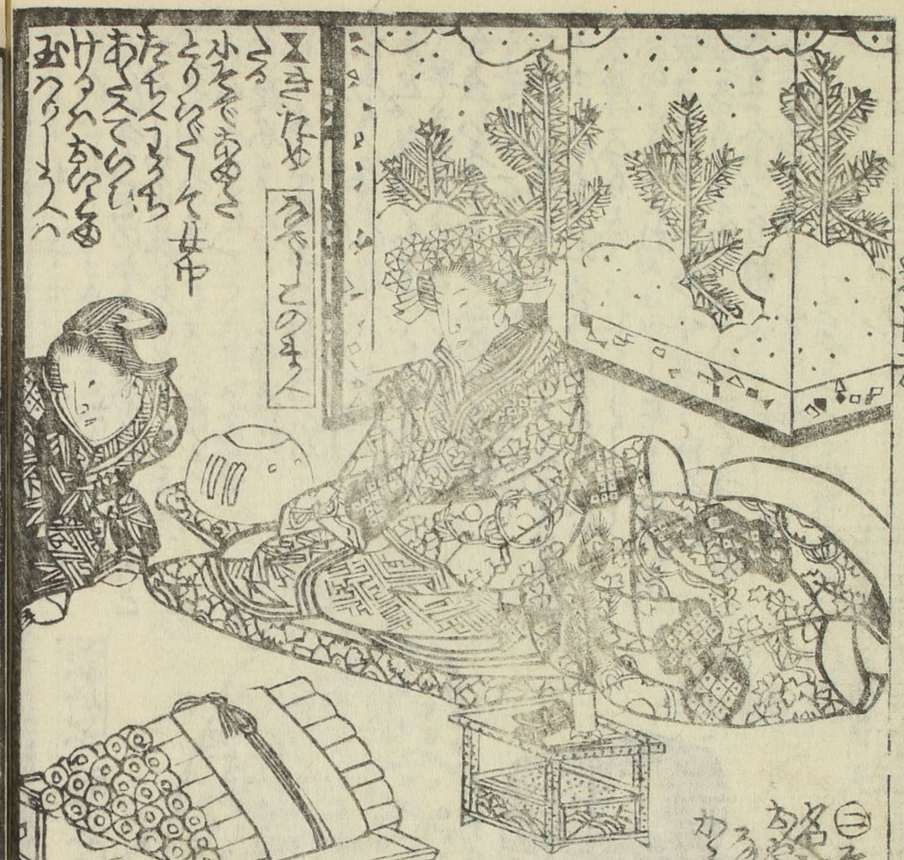
かくて母のさーがうけて
うめうるうんよりのねがひ
けまびのうとものうるり
とそ者がよくうるうの
ちんいうまーまたり
かぎくのうる
めのまーー
うへ(三)

つまをまと

(四) りくきよ
ーまうくーて
ゆまちうぐ

うまとうれーや十士年をらちとふ
ちらてこれりーやさんとあのうよ
かひうきこのおうくーあうそこうえと
おがーめを抽をのんうちうる
ごきこそうそのヤス ところ
ゆうとうもおこうくうそうそ
のたあうまうとあうれべ
ーーがーあゆへけんざらの
母うるうそうそうもちうての
こうやりけさいきえのうーーえへ
おとでめヤたまーどたうをを
しそうさけてうまとうとあるう
あをらうくーぐくゆあのまは
十七年ことーくおこーも六十
二うりうそのおうーうくまえて母さまを
ううくたゆんのうくうくあきヤスへ
不孝うり今らちうどうーーうう
おらとまをねがふべーちうーそれも
母さまをヤよあうこうけてのう
うりあまたへうそうそうるぞの
さまくあうり母くようそうく
おうそうヤてあうこうぐと
うけべーとそうぐまの日あせくを
ちうそうけり(一)

抽行や抽をも



つぎは きよ川

第十話

かくれもなききよ川へめでたく出でくさぐりたる㊀

第十話

(二)ちょうどたろうがかこうつき合ふこうせとて金三十あまりとけれいてきえ
とて金百ばかりとびけり○かるわどこと
かとよろこびけり○かるわどこと
ちょうけさとも百あのかこと
一あのこうけると梅名りんぐ
女房あさこ
おどりけり

根源實紫　笠亭仙果作　十二編 十三編 十四編　梅蝶樓國貞画

新增補西國奇談　為永春水作　七編 八編 九編　同画

綾錦琴聲美人録　山東庵京山作　十六編 十七編 十八編　立川齋國郷画

松梅竹取物語　初編 二編　梅蝶樓國貞画

娘庭訓金鶏　笠亭仙果作　三編 四編 五編　同画

花兄弟陸奥名所　初編 二編　同画

地本繪草紙團扇問屋　芝神明前三嶋町角　佐野屋喜兵衛板

A 13
4450
1